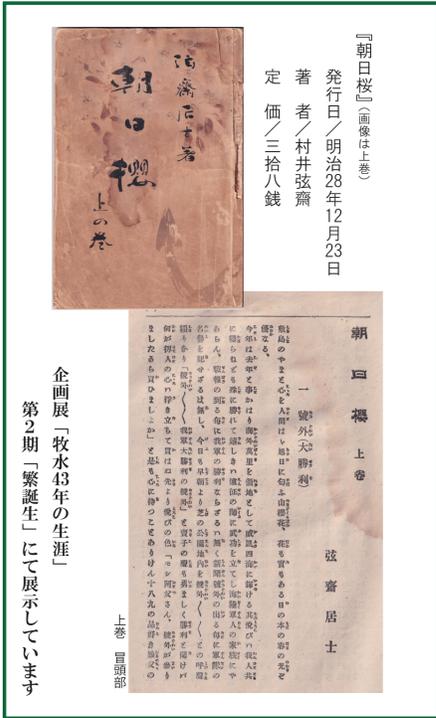


収蔵資料から

其の104 小説『朝日桜』(上・下巻)



『朝日桜』(画像は上巻)
発行日/明治28年12月23日
著者/村井弦齋
定価/三拾八銭

企画展「牧水43年の生涯」
第2期「繁誕生」にて展示しています

小説『朝日桜』は日清戦争下の明治28年1月から報知新聞に連載され、後に上下2巻で書籍化されます。主人公が新型魚雷を開発したことを機に、日本海軍が破竹の連勝をしていく物語を”胸を踊らせて読みふけた”と牧水は「おもひでの記」にて回想しています。

坪谷小学校の東隣にある昌福寺四代目住職金田大珍は、大の読書好きでした。若山家と縁戚にあった金田は、手に入れた本を片手に若山家を訪れ、マキや姉たちに読み聞かせていたそうです。牧水が最初に読んだ小説『朝日桜』は、彼からもたらされたものでした。 参照/『若山牧水伝』

牧水歌碑めぐり

其の104 昌福寺 (日向市)



平成12年建立

けふもまた
こころの鉦を
うち鳴らし
あぐがれてゆく
牧水

明治40年夏、牧水は大学の夏休みに中国地方を歩いて帰省します。この歌は、岡山・広島の間境で「幾山河～」と一緒に詠まれました。「あぐがれ」について、歌人で若山牧水記念文学館長の伊藤一彦氏は、「歌人牧水を理解する上で重要なキーワードである」と解説します。

この歌は、牧水の故郷坪谷にある昌福寺七代目住職鈴木孝禅氏によって、山門碑の裏に刻まれています。昌福寺は日向若山家の菩提寺であり、牧水の母マキの妹が四代目住職金田大珍に嫁いでいることから、若山家と縁深い寺です。



昌福寺



参照/『若山牧水歌碑インデックス 改訂版』

文学館だより



令和7年11月1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高第115号

=若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year=

発表!! 第30回若山牧水賞



やま なかりつ ゆう
山中律雄氏



こうげん
受賞歌集『光圈』

秋田県にかほ市出身、在住の山中律雄氏、受賞歌集『光圈』に第30回若山牧水賞がまりました。山中氏は大学時代から短歌を詠み始め、受賞歌集は第6歌集となり、若山牧水賞と並んで第12回佐藤佐太郎短歌賞のダブル受賞にも輝いています。現在、曹洞宗禅林寺住職でもいらっしやいます。

受賞歌集『光圈』より

おほよその残生知りてゆくりなくこぼるるわれの涙を宥せ
杖替りと言へば妻にはすまないがこの頃ともに出ること多し
裏畑に実りて赤きミニトマト作も法もなく四つ五つ食ふ
うちつけに闇のなかよりあらはれて蛾が街灯の光圈を飛ぶ

授賞式及び受賞祝賀会 令和8年1月29日(木) 15:00～ 宮崎観光ホテル(宮崎市)
受賞者学校訪問 1月30日(金) 午前 宮崎県立延岡商業高等学校
若山牧水生家・若山牧水記念文学館訪問
受賞記念講演会 1月30日(金) 午後 日向市中央公民館

問い合わせ先 若山牧水賞運営委員会事務局 TEL 0985-26-7099

山中氏受賞コメント このたびは栄えある「若山牧水賞」に選出いただきまして心よりお礼申し上げます。拙い歌集に目を留めてくださった選考委員の先生方に感謝申し上げます。短歌初心者の頃、初めて加入した短歌結社が、若山牧水創刊の「創作」であり、どこか不思議な縁を感じています。本当にありがとうございました。

牧水生誕140年の今年、牧水先生と縁ある山中氏の受賞、私たちまで嬉しくなりました。これも「意味ある偶然」でしょうか。お目にかかる日を楽しみにしています。

「みやざきへ牧水を追いかけて」みなかみより短歌集届く

駅に立つ牧水像に「ただいま」と声かけてみる うるわしき青
なつかしい 牧水いわく愛しいと言う日向の父母ハグして「ただいま」
坪谷には川あり山あり海もあり人あり酒あり牧水もあり
とうめいなあの川底にこころだけ置き忘れてひとり落ちてく



第75回牧水祭に前日よりお越しくださったみなかみ町牧水会から短歌集「みやざきへ牧水を追いかけて」が届きました。9/16～17開催イベントを詠んだ歌、立ち寄った観光地を詠んだ歌、堪能した食を詠んだ歌など41首が収められています。写真も添えられ宮崎の旅の1冊に仕上がっています。帯には「牧水のふるさと日向の国へ・・・」の文字が。ありがとうございました。

第15回青の國若山牧水短歌大会 入賞者が決定しました

青の國大賞 宮崎県宮崎市 辻本 美菜子 様
宮崎で撮られた場面はすぐわかる透き通る空ひかり満つ海

応募総数4,191首の頂点に輝いた作品です。辻本様、おめでとうございます。

- 【一般の部自由題 最優秀賞】 東京都足立区 小野 史様
朝焼けに染まるんじゃない僕たちが本気ぶつけて染めるんだ、夏。
- 【一般の部題詠「上」 最優秀賞】 愛知県名古屋 清水 良郎様
真四角に畳みて姪が返しくる喪服の上に着た割烹着
- 【小学生の部 最優秀賞】 日向市立日知屋東小学校 3年 藤原 乙羽様
ももだいすきわたしがすきなそのももをはじめて食べた妹わらう
- 【中学生の部 最優秀賞】 鶴翔中学校 1年 日高 莉瀬様
教室のすみであなたと二人だけこれが私の「アオハル」なのか
- 【高校生の部 最優秀賞】 宮崎県立宮崎商業高等学校 3年 高野 もも様
問題集夜更けにひとりページめくる知らぬ世界が静かにひらく

【応募状況】

	一般自由	一般題詠	小学生	中学生	高校生	合計
第15回 令和7年	876首	854首	800首	669首	992首	4,191首
第14回 令和6年	669首	637首	929首	945首	1,551首	4,731首

入賞者および入賞作品詳細は当文学館ホームページをご参照ください。

表彰式のお知らせ

日時: 令和7年12月13日(土) 13:30～15:00 (12:30から受付)
場所: 日向市中央公民館
内容: 開会行事
表彰 伊藤一彦先生 一般の部自由題選者
講評 大口玲子先生 一般の部題詠、小・中・高校生の部選者
閉会

入場無料です。伊藤先生、大口先生の選評も間近で聞くことができます。気軽に短歌を味わいに来られませんか。

私も応募を始めて6年経ちますが、入賞の道はほど遠いようです。しばらくは短歌実作基礎講座で修行を重ねます(ひたか)

牧水先生の一首 折に触れて出会う一首を紹介しています

菜をあらふと村のをみな子ことごとく寄り来てあらふ温泉の縁に
なをあらうと おらのおみなご ことごとく よりきてあらう いでゆのふちに

牧水は大正7年11月12日、みなかみへ向け旅に出ている。12日伊香保温泉泊、13～15日水上湯原温泉泊、湯桧曾(ゆひそ)温泉、16～17日谷川温泉泊、20日川原湯温泉泊といくつもの温泉に立ち寄っている。中でも谷川温泉においては29首もの歌が詠まれており、温泉で菜を洗う娘の様子、軒先に張られた厄除けのしめ縄の様子、柿の実を捨てる男児の様子など、当時の村人たちの様子が想像できるものが多く収められている。以前紹介した次の歌も同時に詠んだものである。

十あまり二十に足らぬ家かずのこの山里に流行性感冒流行る
はやり感冒はらふといひて軒ごとに張れるしめ縄に雪つみにけり

そして4年後の大正11年、牧水は再びみなかみを訪れ、のちに紀行文「みなかみ紀行」を出版することとなる。

参照『若山牧水全歌集 伊藤一彦編』
『谷川温泉と若山牧水』

菜をあらふと村のをみな子

ことごとく寄り来てあらふ

温泉の縁に 牧水

企画展『牧水43年の生涯』 第2期「繁誕生」開催中です

会期 10月4日(土)～12月28日(日)

牧水生誕140年を迎えた本年から、没後100年を迎える令和10年にかけて、牧水の生涯と現在まで続く牧水顕彰を紹介する企画展を開催しています。

10月からは第2期「繁誕生」と題し、誕生から坪谷尋常小学校を卒業するまで、繁(牧水)の自然観がふるさと坪谷でどのように育まれてきたのかを辿ります。



「東京繪入新聞」
たれを男の名の相常くらねば葉山の家の繁れる
今ら名さへ志留留と喚換て總て家内の下舞下舞
また他人の前の男の尻と言はずべき旨行したれば
隣の者でさへ女子と知れるし稀なりとぞ羨む今
名づけの場面

牧水の本名「繁」の由来は、姉たちが愛読していた『東京繪入新聞』に掲載された物語の主人公「葉山志計留(しげる)」です。物語中の葉山家では、子が続けて亡くなっていた。そこで、今度生まれた女兒が丈夫に育つことを願い、男児として育てることにし、名も「葉山の家の繁れるように」と志計留と改名します。おかげで志計留は無事成人し、大活躍するのです。

牧水の姉たちは、玉のような弟が元気に育つことを願い、「若山の家の繁れるように」との思いから「繁」と名づけ、役所に届けたのです。

若山牧水記念文学館
〒888-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地

■利用案内■
【開館時間】9:00～17:00 (入館は16:30まで)
【休館日】月曜日(祝日は除く) 年末年始(12月29日～1月3日)
【入館料】小・中学生/100円 高校生以上/310円(20名以上の団体は2割引)
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp

